

成果指標				
成果指標	老人保護被措置者数33人前後			
指標設定の考え方	一人暮らしや寝たきりなどの「要援護高齢者」の人口のうち「被措置者」の占める割合の全国平均から、伊予市において概ね適正と思われる人数を成果指標に設定した。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	29	29	0	0
実績	24	22	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	5	A
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	5	
	効率性	手段の最適性	5	A
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	5	
課題認識	法定事務であり、今後とも適正な運用により、養護が必要な老人の保護に努める。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	5	
	効率性	手段の最適性	5	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	法定事務であり、今後とも適正な運用により、養護が必要な老人の速やかな保護に努める。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	評価委員会抽出事業

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	・このシートでは事情がよく分からない。・養護老人ホーム入所措置事業の実施は必要である。待機状況をしっかりと把握されたい。・成果指標の33人前後、目標は29とあり、この意味するところが分からない。この実績が良いのか悪いのかも分からない。・どうしても養護老人ホームへの負担金ばかりが目についてしまう。合併して一部事務組合の解消はないのか、ちょっと気になった。
-------------------	---

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	